

2024年10月24日

2024年10~12月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査

堅調な生産活動に支えられ、緩やかな回復が続く

静岡経済研究所（理事長 馬瀬和人）では、9月に実施した「静岡県内主要産業四半期見通し調査」の結果をとりまとめましたので、その内容をお知らせします。

現況

- 県内産業の現況（2024年7～9月期）は、『順調』が「民生用電器部品」「建設」「情報サービス」の3業種、『普通』が「製紙」「食品・飲料」「工作機械」「自動車部品」「二輪車部品」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「観光・レジャー」「外食」の11業種となった。
- 『低調』は「住宅」の1業種で、『好調』および『不調』の業種はなかった。

今後の見通し

- 2024年10~12月期の見通しについては、引き続き『好調』と『不調』の業種はなく、順調』が3業種、『普通』が11業種、『低調』は1業種のまま推移する見通し。
- 賃上げの動きが広がり実質賃金は改善基調にあるものの、物価高で消費者の節約意識は依然として根強く、個人消費の回復は勢いを欠く展開が予想される。一方、設備投資の活発化や自動車の生産回復を背景に、底堅い生産活動が見込まれ、県内産業景気は総じて緩やかな改善が続くと見込まれる。
- 本調査と同時に実施したアンケート調査によれば、2025年度の新卒採用方針について、24年度より「増やす」と回答した企業が約2割、「前年度並み」も4割を超えており、非製造業を中心に堅調な採用意欲がうかがわれる。

業種	業界天気 現況 (7-9月)	見通し (10-12月)
製紙		
食品・飲料		
工作機械		
民生用電器部品		
自動車部品		
二輪車部品		
建設		
住宅		
大型小売店		
自動車販売		
物流		
情報サービス		
人材派遣		
観光・レジャー		
外食		

※本件のお問合せ先 担当 田原

〈11月の記者発表予告〉下記の調査について記者発表を予定しています

「静岡県版 景気ウォッチャー調査（2024年10月）」
「静岡県内企業 冬のボーナス予想」

堅調な生産活動に支えられ、緩やかな回復が続く

業界景気の現況（2024年7～9月期）

県内産業の現況（2024年7～9月期）は、『順調』が「民生用電器部品」「建設」「情報サービス」の3業種、『普通』が「製紙」「食品・飲料」「工作機械」「自動車部品」「二輪車部品」「大型小売店」「自動車販売」「物流」「人材派遣」「観光・レジャー」「外食」の11業種、『低調』が「住宅」の1業種で、『好調』および『不調』の業種はなかった。

業界景気の見通し（2024年10～12月期）

10～12月期の見通しについては、引き続き『好調』と『不調』の業種はなく、『順調』が3業種、『普通』が11業種、『低調』は1業種となる見通し。賃上げの動きが広がり実質賃金は改善基調にあるものの、物価高で消費者の節約意識は依然として根強く、個人消費の回復は勢いを欠く展開が予想される。一方、設備投資の活発化や自動車の生産回復を背景に、底堅い生産活動が見込まれ、県内産業景気は総じて緩やかな改善が続くと見込まれる。






業種ごとにみると、製造業では、主力の「自動車部品」が『普通』を維持。一部メーカーの認証不正問題の影響が薄れ、部品生産量は前年をやや上回る見込み。また、安定した内需に北米向け輸出の上積みも期待される「民生用電器部品」は『順調』のまま推移し、国内外の設備投資の緩やかな回復を受けて「工作機械」も前年をやや上回る見通し。「二輪車部品」は好調だった前年には届かないものの、例年並みの水準は確保する見込み。そのほか、前年並みの生産量が見込まれる「製紙」、生産量は減少するも価格改定が浸透し前年並みの売上を見通す食品を含む「食品・飲料」も『普通』のまま推移する模様。

非製造業では、中心市街地の再開発で商業分野を中心に堅調な需要が見込まれる「建設」、大手システム開発会社からの受注が好調な「情報サービス」が『順調』を維持する見通し。所得環境の改善を受け前年をやや上回りそうな「大型小売店」、認証不正問題の影響緩和や新型車投入効果が期待される「自動車販売」、消費財を中心に安定した荷動きを見込む「物流」、主力の一般事務需要の増加が期待される「人材派遣」、インバウンド客は堅調だが国内客の伸び悩みが懸念される「観光・レジャー」、節約志向で来客数が伸び悩み、横ばいでの推移が見込まれる「外食」は、引き続き『普通』で推移するとみられる。一方、「住宅」については、顧客の購入意欲の好転が見込み難しく、戸建て住宅の需要低迷が続くとみられ、『低調』のまま推移すると予想される。

2024年10～12月期 静岡県内主要産業四半期見通し調査一覧表

業種	業界天気		売上高 (前年同期比伸び率)	主要産業の見通し
	現況 (7-9月)	見通し (10-12月)		
製紙		→ 	→	家庭紙・板紙とも需要は堅調で、生産量は前年並み
食品・飲料		→ 	→	生産量の減少が続くも販売単価の上昇で、売上高は前年並み
工作機械		→ 	➔	米大統領選挙や国際見本市後の需要顕在化に期待
民生用電器部品		→ 	➔	底堅い内需に輸出の上積みが期待され、低調だった前年を上回る
自動車部品		→ 	→	認証不正問題の影響が緩和し、県内部品生産量は前年をやや上回る
二輪車部品		→ 	→	部品生産量は高水準の前年には届かないものの、例年並みは確保
建設		→ 	➔	災害復旧工事の一巡や、民間の反動減が予想されるも、例年並みを維持
住宅		→ 	→	住宅購入マインドの改善が期待できず、前年並みで推移
大型小売店		→ 	➔	実質賃金の持ち直しを受けて、販売額は前年をやや上回る
自動車販売		→ 	→	認証不正の影響緩和や新型車投入効果で、前年をやや上回る
物流		→ 	→	消費関連で安定した荷動きが見込まれ、輸送量は前年並み
情報サービス		→ 	➔	大手SIerからの下請業務を中心に、売上高は順調に推移
人材派遣		→ 	→	事務関連を中心に需要は底堅く推移、派遣料金も上昇
観光・レジャー		→ 	→	インバウンドは堅調に推移も、国内客は物価高で伸び悩む
外食		→ 	→	物価高による節約志向で来客数が伸び悩み、売上は前年並みで推移

表の見方

業界天気				売上高	
	好調		低調	➔	非常に増加(+10%以上)
	順調		不調	➔	増加(+3~+9%)
	普通			→	横ばい(+2~△2%)
				➔	減少(△3~△9%)
				➔	非常に減少(△10%以上)

静岡県内主要産業四半期見通し調査「現況」推移

年次	2021年	2022年				2023年				2024年		
四半期	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ (今回調査)
対象月 (○は調査月)	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9
全業種の平均階級値	2.60	2.67	2.53	2.80	2.93	2.93	3.00	3.13	3.07	3.07	3.07	3.13
好調：5												
順調：4												
普通：3												
低調：2												
不調：1												
業 種 数	好調	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0
	順調	1	2	1	2	2	3	4	3	2	2	3
	普通	5	3	3	5	7	8	7	11	12	12	11
	低調	7	9	10	7	5	4	4	1	1	1	1
	不調	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注1) 「業界景気の現況」および「業界景気の見通し」は、対象企業経営者が業界景気動向をどうみているかを調査したもの。調査は、毎年3、6、9、12月に実施。「業界景気の現況」とは、調査時点(9月調査であれば7~9月期)における業況、「業界景気の見通し」とは、調査時点における翌期(9月調査であれば10~12月期)の見通しを示す。

注2) 調査方法は、アンケート調査とヒアリング調査による。アンケート調査の概要は以下の通り。
 調査時点…2024年9月上旬
 回答企業…県内主要15業種(150社)

注3) 平均階級値は、好調：5、順調：4、普通：3、低調：2、不調：1とする、15業種の平均値。

各業種および表の見方

製紙 家庭紙・板紙とも需要は堅調で、生産量は前年並み

【現況】

【見通し】

【10-12月売上高】
前年同期比 7-9月期比

現況

【7-9月期】家庭紙の生産量は、駆込み需要の反動減が生じたものの蓄用の需要がカーでも価格全体的に引き合いが弱く、生産量は前年をやや下回った模様。

見通し

【10-12月期】家庭紙は、家庭用・業務用とも需要は堅調で、生産量は前年並みで推移する見通し。表から夏にかけての価格紙の生産量が底堅く推移することで、前年と同水準で推移する見通し。白板紙は医薬品や化粧品向けが堅調で前年をやや上回る見込み。

国内紙・板紙生産量(前年比)

資料：経済産業省

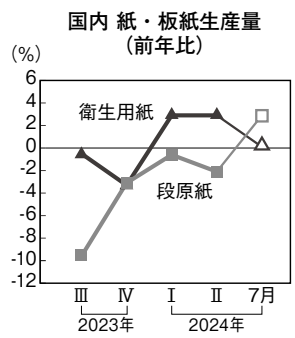
操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	非常に需要超過	非常に過少	非常に上昇	非常に上昇	カ月
89~80%	需要超過	過少	上昇	上昇	
79~70%	均衡	適正	横ばい	横ばい	
69~60%	供給超過	過多	下降	下降	
59%以下	非常に供給超過	非常に過多	非常に下降	非常に下降	

主要業種景況見通し

製紙 家庭紙・板紙とも需要は堅調で、生産量は前年並み

【7-9月期】 家庭紙の生産量は、駆込み需要の反動減が生じたものの、8月には巨大地震注意報や豪雨の影響で備蓄用の需要が増加し、前年並みで推移した。県内中小メーカーでも価格改定がほぼ浸透した。段原紙は、全体的に引き合いが弱く、生産量は前年をやや下回った模様。

【10-12月期】 家庭紙は、家庭用・業務用とも需要は堅調で、生産量は前年並みで推移する見通し。春から夏にかけての価格改定が寄与し増収を見込む。段原紙の生産量は、年末に向けて需要期に入り、食品向けなどが底堅く推移することで、前年と同水準で推移する見通し。白板紙は医薬品や化粧品向けが堅調で前年をやや上回る見込み。



国内紙・板紙生産量(前年比)

資料：経済産業省

【10-12月期売上高】

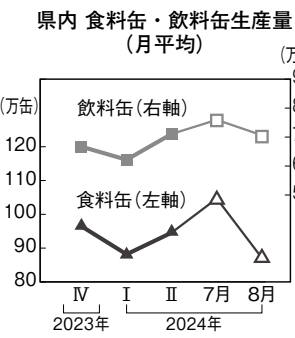
前年同期比	7-9月期比
→	→

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	均衡	適正	上昇	横ばい	0.1~1.0ヵ月

食品・飲料/製茶 生産量の減少が続くも販売単価の上昇で、売上高は前年並み

【7-9月期】 **食品・飲料**：県内食料缶メーカーの売上高は前年を上回った。価格改定の浸透により販売単価が上昇したほか、防災意識の高まりで需要も堅調だった。飲料缶類の生産量は需要増を受け、前年を上回った。**製茶**：製茶問屋の売上高は、需要が低調で前年を下回った。

【10-12月期】 **食品・飲料**：県内食料缶メーカーの売上高は、前年並みで推移する見通し。生産量は前年を下回るものの、価格改定の浸透で販売単価は前年比で上昇する見込み。飲料缶類の生産量は、受注が堅調で前年並みで推移する模様。**製茶**：製茶問屋の売上高は、輸出向けが好調も、専門店向けが振るわず、前年を下回る見通し。



県内食料缶・飲料缶生産量(月平均)

資料：(一社)静岡缶詰協会

【10-12月期売上高】

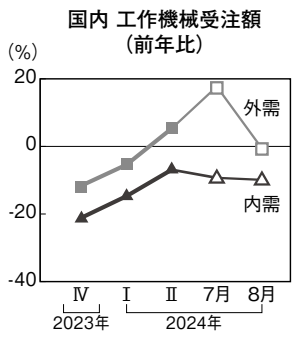
前年同期比	7-9月期比
→	→

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
90%以上	均衡	適正	横ばい	横ばい	0.1~1.0ヵ月

工作機械 米大統領選挙や国際見本市後の需要顕在化に期待

【7-9月期】 全国の受注額は、前年並みの水準で推移した模様。外需は、主力の中国市場が、政府が主導する設備更新と消費財買い替え推進政策のもと活性化した。内需は、24ヵ月連続で前年割れとなった。県内は、国内産業向けがメインの中小メーカーで苦戦が続いた。

【10-12月期】 全国の受注額は、国内外で企業の設備投資が底堅く、前年をやや上回る見通し。11月の米大統領選挙やJIMTOF(日本国際工作機械見本市)までは様子見が続きそうだが、年末にかけて動き出すユーザーが増えそう。ただし、各国の金融政策など先行きに不透明な要素も多く、大幅な回復は見込み難い。



国内工作機械受注額(前年比)

資料：(一社)日本工作機械工業会

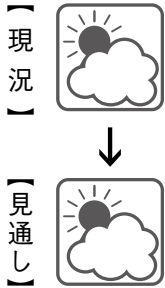
【10-12月期売上高】

前年同期比	7-9月期比
→	→

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	適正	上昇	横ばい	2.0~13.0ヵ月

民生用電器部品

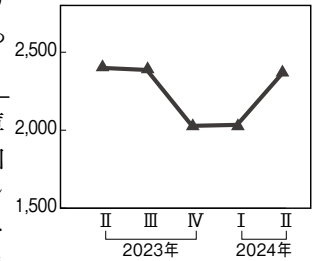
底堅い内需に輸出の上積み期待され、低調だった前年を上回る



【7-9月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、記録的な猛暑で買替需要が大幅に増加し、在庫過剰で生産調整を実施した前年を+2割程度上回って推移した。こうした状況下、県内部品メーカーの受注量も前年を上回った模様。

【10-12月期】県内の家庭用エアコンの出荷台数は、在庫調整のため生産を抑制していた前年を+1割前後上回り、例年並みの水準を確保する見通し。業務用エアコンは、北米向けのオーダーが好調に推移しており、前年をやや上回る見込み。これに伴い、県内部品メーカーの受注量も前年を上回るとみられる。

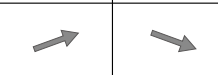
国内 家庭用電気機器出荷額
(月平均)
(億円)



(年、四半期)
資料：経済産業省

【10-12月期売上高】

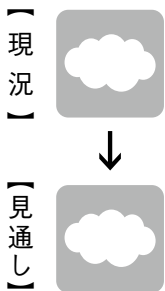
前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
89~80%	均衡	適正	横ばい	横ばい	1.0~3.0ヵ月

自動車部品

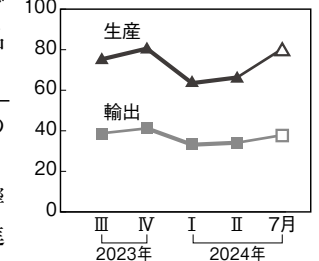
認証不正問題の影響が緩和し、県内部品生産量は前年をやや上回る



【7-9月期】全国の自動車生産台数は、前年を△1割強下回った。認証不正問題や台風・豪雨の影響で国内工場の一部で生産停止を余儀なくされたほか、アジア地域での販売台数減少なども響いた。これに伴い、県内部品メーカーの生産量も、前年をやや下回った模様。

【10-12月期】全国の自動車生産台数は、認証不正問題の影響が尾を引き、前年実績を△2~3%下回る見通し。ただし、国内生産工場の再開など、認証不正問題の影響が徐々に緩和に向かうことや、部品調達状況の改善が進み供給の安定化が見込まれることから、県内部品メーカーの生産量は、前年をわずかに上回るとみられる。

国内 自動車生産・輸出台数
(月平均)
(万台)



(年、四半期)
資料：(一社)日本自動車工業会

【10-12月期売上高】

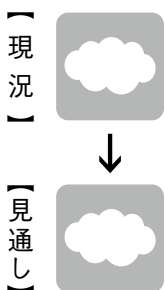
前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
79~70%	均衡	適正	横ばい	上昇	0.5~3.0ヵ月

二輪車部品

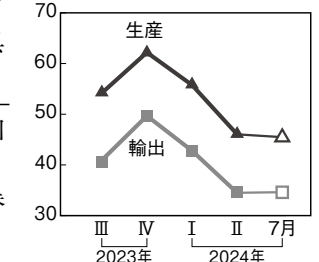
部品生産量は高水準の前年には届かないものの、例年並みは確保



【7-9月期】全国の完成車生産台数は、前年をわずかに下回った。夏場のアクティビティとしてオフロードバイクの需要が底堅く推移した一方、好調だったツアラータイプ等の需要が一巡、好調だった前年を割り込んだ。県内部品メーカーの受注量も前年をやや下回った。

【10-12月期】全国の完成車生産台数は、前年をやや下回る見通し。先進国を中心にコロナ禍で増えた新規層やリターンライダーによる最新モデルや大型モデルへの買替需要が下支えし、好調だった前年には届かないものの、例年並みは確保する見通し。これに伴い、県内部品メーカーの生産量も前年比微減で推移するとみられる。

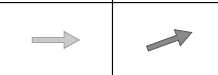
国内 二輪車生産・輸出台数
(月平均)
(千台)



(年、四半期)
資料：(一社)日本自動車工業会

【10-12月期売上高】

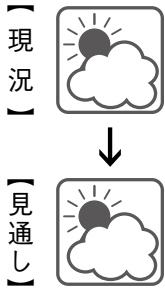
前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	製品価格	受注残
79~70%	均衡	過多	横ばい	横ばい	1.0~2.0ヵ月

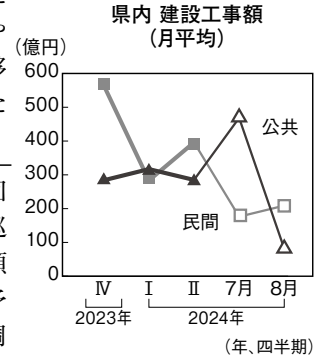
建設

災害復旧工事の一巡や、民間の反動減が予想されるも、例年並みを維持



【7-9月期】県内の公共工事契約高は、前年を上回った模様。国関係で建築工事の大型案件があったほか、県や市町関係でもインフラ修繕工事などが続き、堅調に推移した。民間の工事費予定額は、前年の需要が好調だった運輸業で反動減が生じ、前年水準をやや下回った。

【10-12月期】県内の公共工事契約高は、前年をやや下回る見通し。2022年に発生した台風15号の復旧工事が一巡し、好調だった前年を下回りそう。民間の工事費予定額は、前年に大型施設の着工があった製造業で反動減が予想されるものの、市街地再開発に伴い商業分野などで堅調な需要が見込まれ、例年並みの水準を維持する見通し。



資料：国土交通省、建通新聞社

【10-12月期売上高】

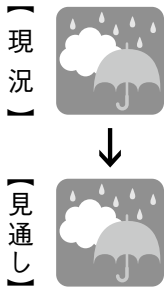
前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	工事単価	受注残
90%以上	需要超過	—	上昇	上昇	4.0~12.0ヵ月

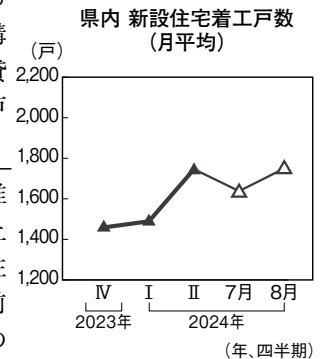
住宅

住宅購入マインドの改善期待できず、前年並みで推移



【7-9月期】県内の新設住宅着工戸数は、前年を下回った模様。住宅価格の高止まりが続く中、消費者の住宅購入意欲は上向かず、持家の着工戸数は弱含みで推移。貸家は前年水準を維持したが、分譲は、マンション着工戸数の反動減が生じ、好調だった前年を下回った。

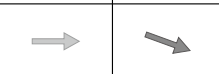
【10-12月期】県内の新設住宅着工戸数は、前年並みで推移する見通し。人気エリアの地価上昇や建築価格の値上がり、加えて住宅ローン金利の上昇圧力が強まる中、住宅購入マインド改善は期待できず、持家は低調だった前年並みで推移しそう。貸家や分譲は、中心市街地付近のマンション開発が進み、ともに底堅く推移する見込み。



資料：国土交通省

【10-12月期売上高】

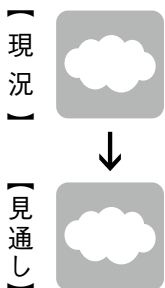
前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	工事単価	受注残
79~70%	均衡	適正	上昇	上昇	1.0~6.0ヵ月

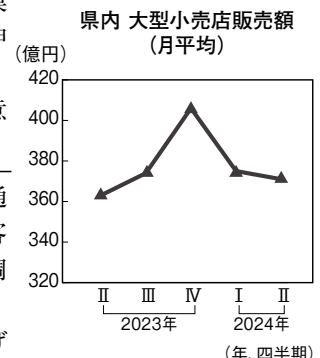
大型小売店

実質賃金の持ち直しを受けて、販売額は前年をやや上回る



【7-9月期】県内の総販売額は前年並みで推移した模様。百貨店は記録的猛暑や大型台風の影響で来客数が伸び悩み、販売額は前年をやや下回った。総合スーパーは、猛暑で季節商品の販売が伸びたほか、8月の巨大地震注意報発表で、飲料水や保存食などの備蓄特需が発生した。

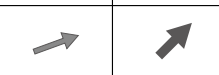
【10-12月期】県内の総販売額は前年をやや上回る見通し。百貨店は、実質賃金が改善傾向にある中、主力顧客である中間層の購買意欲も徐々に上向くとみられ、低調だった前年をわずかに上回る見通し。総合スーパーは、主力の飲食料品を中心とした商品単価の上昇が押し上げる構図で、前年をやや上回る見込み。



資料：経済産業省

【10-12月期売上高】

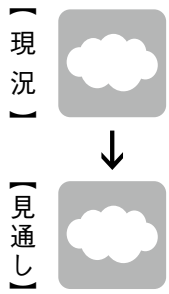
前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
—	均衡	—	上昇	上昇	—

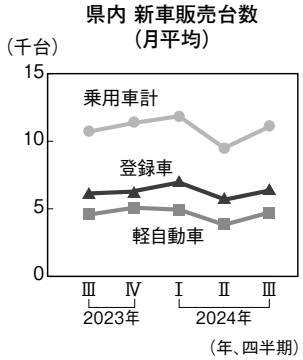
自動車販売

認証不正の影響緩和や新型車投入効果で、前年をやや上回る



【7-9月期】県内の新車販売台数は、前年を+3.4%上回った。トヨタが認証不正問題の影響で伸び悩んだほか、マツダも新モデルの投入遅れで前年を割り込んだ。一方、ダイハツがHVの生産を再開したほか、新型車を投入したホンダが好調で、全体では前年をやや上回った。

【10-12月期】県内の新車販売台数は、認証不正の影響が緩和し、人気車種の納期が短縮に向かうとみられることから、前年をやや上回って推移する見通し。また、9月後半に複数メーカーが軽自動車の新モデルを投入したほか、発売時期が遅れていたSUVの新モデルの投入も予定されており、需要喚起が期待される。



資料：(一社)日本自動車販売協会連合会静岡県支部
(一社)全国軽自動車協会連合会静岡事務所

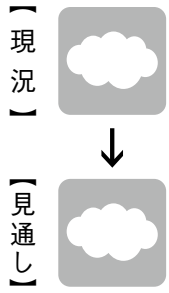
【10-12月期売上高】

前年同期比	7-9月期比
→	↗

操業度	需給バランス	製品在庫水準	仕入単価	販売単価	受注残
—	需要超過	過少	上昇	上昇	1.0~3.0ヵ月

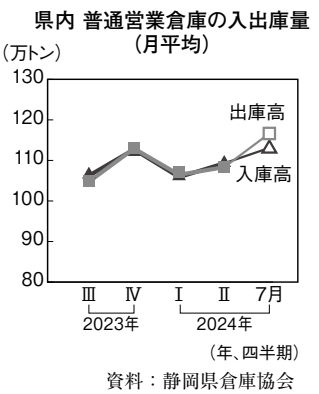
物流

消費関連で安定した荷動きが見込まれ、輸送量は前年並み



【7-9月期】県内のトラック輸送量は、前年をやや上回る水準で推移した模様。猛暑の影響で飲料が好調だったほか、輸送用機器や食料品なども底堅く推移した。普通倉庫の入出庫高は、紙・パルプなどの荷動きが堅調で、前年並みの水準は確保したとみられる。

【10-12月期】県内のトラック輸送量は、前年並みの水準で推移する見通し。輸送用機器のほか、紙・パルプや食品、飲料などの消費関連が底堅く推移すると予想される。普通倉庫の入出庫高は、年末にかけて食品関連で安定した荷動きが見込まれ、前年並みの水準は確保できるとみられる。



資料：静岡県倉庫協会

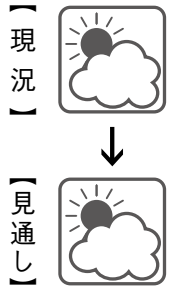
【10-12月期売上高】

前年同期比	7-9月期比
→	→

操業度	需給バランス	製品在庫水準	燃料価格	サービス単価	受注残
89~80%	均衡	—	横ばい	上昇	—

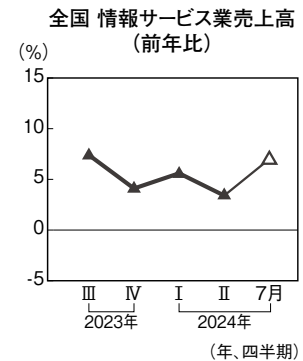
情報サービス

大手SIerからの下請業務を中心に、売上高は順調に推移



【7-9月期】全国および県内の売上高は、前年をやや上回って推移した。全国では、堅調な受注環境が続き、主力の受注ソフトウェアを中心に売上高が前年を上回った。県内でも、首都圏のデジタル化需要を中心に高単価案件を獲得したことで、売上が伸びた企業が多くみられた。

【10-12月期】全国および県内の売上高は、引き続き前年をやや上回って推移する見通し。県内では、大手システムインテグレータ (SIer) からの下請業務を中心に旺盛な受注が見込まれ、売上高も順調に推移する見込み。また、依然として人手不足が深刻で、給与の引上げなど待遇改善による人材確保の動きが継続するとみられる。



資料：経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」

【10-12月期売上高】

前年同期比	7-9月期比
→	→

操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス価格	受注残
90%以上	需要超過	—	—	横ばい	1.0~3.0ヵ月

人材派遣

事務関連を中心に需要は底堅く推移、派遣料金も上昇

【現況】



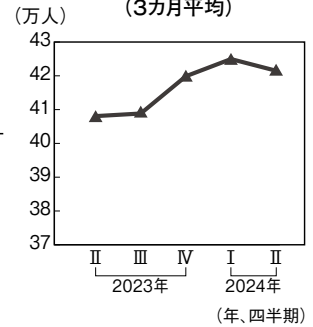
【見通し】



【7-9月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年を若干上回った模様。事務職を中心に派遣ニーズは底堅く、観光関連の業務や接客、サービスなどの業務で需要が拡大し、全体を押し上げた。一方、製造業向けは弱含み、自治体向けは横ばいにとどまった。

【10-12月期】県内の派遣社員の実稼働者総数は、前年をやや上回る見通し。製造業は、引き続き弱含みで推移するものの、メインの事務職では根強い需要が見込まれる。災害対応による保険金関連業務の派遣ニーズの発生なども押し上げ要因となる。また、賃上げの広がりや派遣料金の上昇も進むとみられ、収益改善が期待される。

全国 派遣社員の実稼働者数 (3カ月平均)



資料：(一社)日本人材派遣協会

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比



稼働率	需給バランス	製品在庫水準	派遣原価	派遣単価	受注残
89~80%	均衡	—	上昇	上昇	—

観光・レジャー

インバウンドは堅調に推移も、国内客は物価高で伸び悩む

【現況】



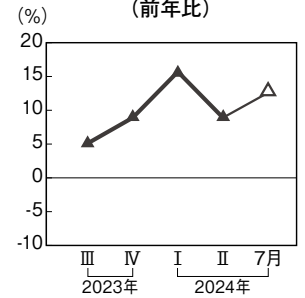
【見通し】



【7-9月期】県内主要旅館の総売上高は、前年をやや下回ったとみられる。記録的猛暑による外出控えに加えて、台風や豪雨、巨大地震注意報発表などでキャンセルも相次ぎ、書入れ時である8月が低調にとどまった。また、米をはじめとした食材の高騰が収益を圧迫した。

【10-12月期】県内主要旅館の売上高は、前年水準にとどまる見通し。インバウンドは、引き続き堅調な推移が見込まれる。国内客は、年末年始が最大9連休となる曜日配列で集客に期待がかかるものの、通期では物価高の影響で旅行マインドの大幅な改善を見込み難く、宿泊者数は前年をやや下回るとみられる。

県内 宿泊者数 (前年比)



資料：観光庁

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比



稼働率	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	サービス単価	受注残
79~70%	均衡	—	上昇	上昇	—

外食

物価高による節約志向で来客数が伸び悩み、売上は前年並み

【現況】



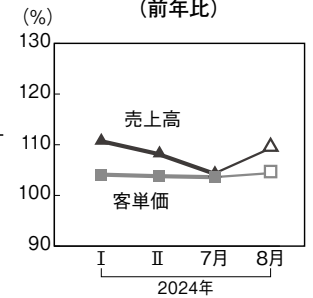
【見通し】



【7-9月期】全国の主要外食店の売上高は、首都圏のインバウンド需要がけん引し、前年を上回ったとみられる。県内は猛暑で夏季メニューが好調だったほか、値上げの浸透で客単価が上昇した。一方、物価高や天候不順の影響で客数が伸びず、売上高は横ばいにとどまった模様。

【10-12月期】全国および県内の主要外食店の売上高は、前年並みで推移する見通し。秋の行楽シーズンや年末に向けたイベントで、ファミリーや団体客の来店機会の増加が見込まれる。一方で、物価高による節約志向が足かせとなり、来客数の伸びは限定的とみられ、総じて売上高は前年並みにとどまる模様。

全国 外食売上高・客単価 (前年比)



資料：(一社)日本フードサービス協会

【10-12月期売上高】

前年同期比 7-9月期比



操業度	需給バランス	製品在庫水準	原材料価格	販売単価	受注残
—	均衡	—	横ばい	横ばい	—

特別調査 25年度の新卒者の採用方針

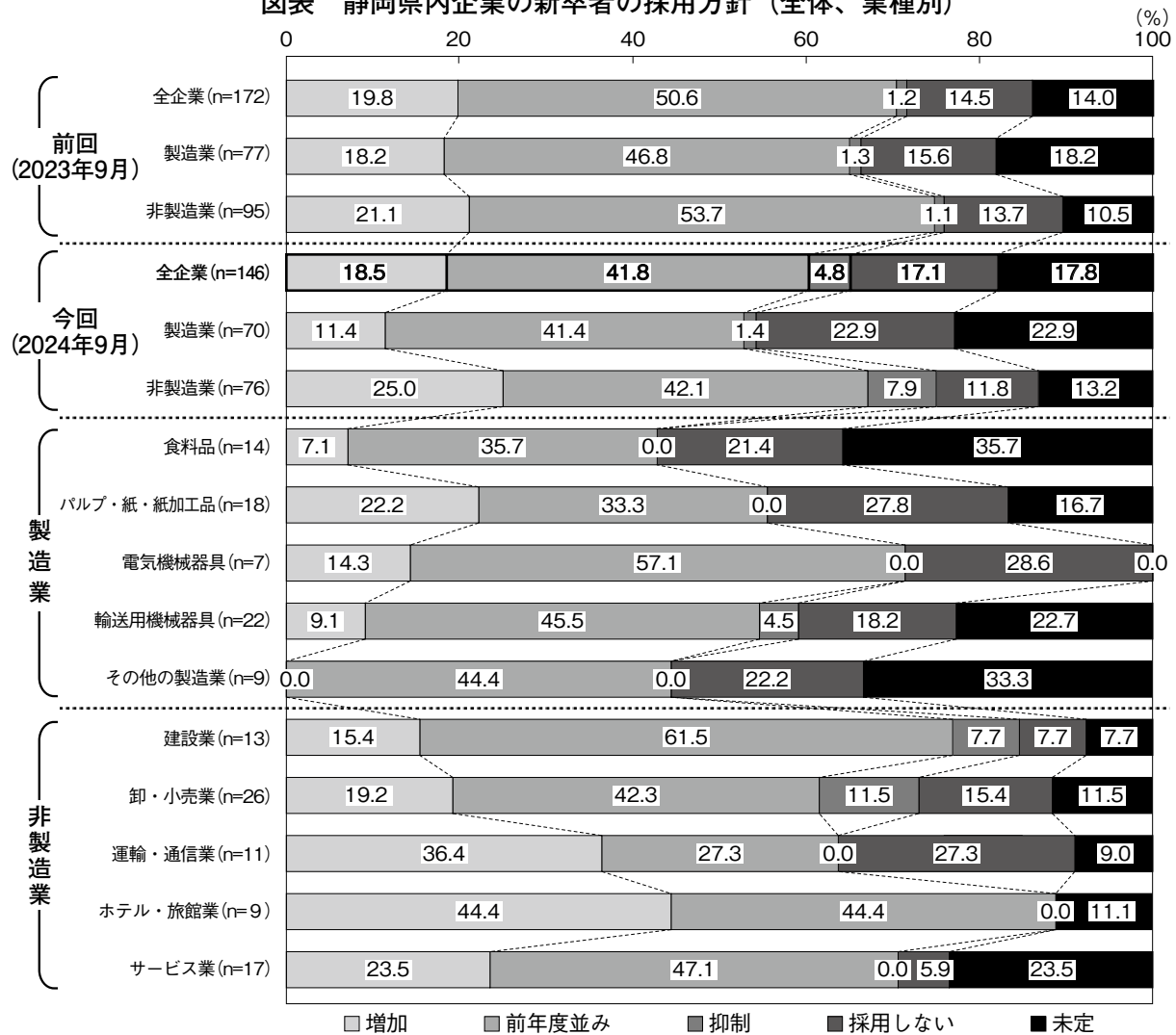
非製造業を中心に、県内企業の新卒採用意欲は引き続き旺盛

県内企業に2025年度の新卒者の採用方針を尋ねたところ、24年度より「増加」させる企業は18.5%と2割近くに上り、「前年度並み」も41.8%と4割を超えた(図表)。一方、「抑制」(4.8%)や「採用しない」(17.1%)との回答も若干増えるものの、総じて県内企業の新卒採用意欲は堅調に推移している模様だ。

「増加」の回答割合をみると、製造業では11.4%で前回(18.2%)を下回った一方、非製造業は25.0%と、前回(21.1%)を上回った。

業種別に詳しくみると、製造業では“パルプ・紙・紙加工品”で「増加」が2割を超えた一方、“輸送用機械器具”(9.1%)や“食料品”(7.1%)、“その他の製造業”(0.0%)は1割未満にとどまり、バラつきが生じている。また、非製造業では特に人手不足が深刻な“ホテル・旅館業”(44.4%)や、2024年問題への対応を迫られている“運輸・通信業”(36.4%)の採用意欲が際立って高いことがわかる。

図表 静岡県内企業の新卒者の採用方針 (全体、業種別)



調査要領：調査時点2024年9月、調査対象企業586社、回答社数146社、有効回答率24.9%